

新井中央小だより

No. 306

ホームページ <https://myoko.schoolweb.ne.jp/15020005>メールアドレス myoko.araichuou-es@edu-niigata.ed.jp

2025（令和7）年6月20日

ほんものにふれることの教育的な効果

妙高市の教育の重点に示され、当校でもグランドデザインに掲げ重視していることは、「ほんもの教育」と「豊かな体験活動」です。6月は、教育活動の中でほんものにふれたり、体験活動をしったりする場面を多く設定いたしました。

6月6日には、「アウトリーチ芸術鑑賞教室」を行いました。フルート、オーボエ、クラリネット、ホルン、ファゴットの奏者にお出でいただき、ほんもの演奏を見せて、聴かせていただきました。それぞれのもつ楽器の音色の美しさ、複数の楽器が重なり合って奏でるハーモニーの美しさ、そして一つ一つの曲から伝わるもの、1年生から6年生までが発達段階に応じ、感じ取っている様子が子どもたちの目の輝きから伝わってきました。また、子どもたちは演奏する方たちへの思い（あこがれや尊敬の念）を抱いたようです。演奏者の中には、校区（吉木）の出身の方もいらっしゃいました。身近な方も含め、夢や希望、目標をもって、努力を続けていけば、夢を実現できることにも気付かせていただきました。演奏が終わって、演奏者の方と別れを惜しみ、「もっと聴いていたかった」とつぶやいている児童の姿が心に残っています。ほんものにふれ、子どもたちの感性が磨かれていることを感じ取れる活動でした。

また、6月13日には、「地域の『人、もの、こと』とともに かがやくさくらっ子をめざして」をテーマに、「さくらフェスティバル」を、開催しました。保護者・地域の皆様、コミュニティ・スクールの委員の皆様から、ご参観いただき、その後ディスカッションでご意見をいただきました。紙面をお借りし、感謝申し上げます。今回は各学年の生活科、総合的な学習の時間の活動の成果とともに、学習の過程を観ていただきました。6月という年度の早い時期に実施したのは、意見をいただきながら今後の活動をさらに充実させること、保護者・地域の皆様に今後の活動に興味・関心をもっていただき、お子さんの成長を観ていただくことをねらいとしているからです。コミュニティ・スクールの委員の皆様には、年度はじめにも一堂に会し御指導をいただいています。この「さくらフェスティバル」当日の各学年の活動の様子は、裏面に記載しました。この日も、子どもたちは目を輝かせ、あちらこちらで歓声が沸き、自分の考えを進んで発表する姿が見られました。感性や社会性が培われ、得た知識もより生きた知識になったとらえています。

芸術（音楽や絵画）、自然、歴史・伝統、人など、地域は子どもたちにふれさせたい「ほんもの教材」の宝庫です。目指す子どもの姿やねらいや趣旨を明確にしながらか、「ほんもの教育」や「豊かな体験活動」を今後も可能な限り教育活動に取り入れていきたいと思っております。

今月末に実施する5学年の自然教室も、今年度は1泊増やし、2泊3日としました。また、職員だけでなく、3日間地域の方やコミュニティ・スクールの委員さんにも子どもの支援していただきます。子どもたちが、じっくりと「リアルな体験活動」をして、自然、人、ものと時間をかけてかかわり、そこで生じた課題を自分たちで考え、感性や人とかかわる力、問題を解決する力、安全に楽しく過ごす知恵や生きた知識など生きる力を身につけてほしいと願っています。振り返って「自分もみんなも明るくうれしくよかったね」と感じる3日間にするつもりです。